

# 学校運営協議会だより

## 妙高市立妙高小学校

「妙高かるた」で

広がる教育活動

妙高小学校長 福保雄成

上越教育事務所社会教育課に勤務していた四年間、コミュニティ・スクールの振興や家庭教育の推進等についての業務を通して、学校が元気になり地域も元気になる取組を進めたいと考えていました。

妙高小学校に勤務してからも、地域と子どもたちが関わる機会を増やしたいと考えていました。そんな折、「絵本を楽しむ会 ひだまり」川上壽子様、学校運営協議会委員長をされている「妙高（関山）の文化財を語る会」川上昭治様に相談し、実現に至ったのが、地域のお宝を訪ねる遠足でした。川上壽子様には、地域のお宝の選定から見学の交渉、解説者の依頼など、ご尽力いただきました。また、川上昭治様には、子どもたち向けの分かりやすい解説をお考えいただきました。そして、井澤秀峰先生からは、子どもたちの句の指導をしていただきました。遠足に際しては、「絵本を楽しむ会 ひだまり」「妙高（関山）の文化財を語る会」会員の皆様をはじめとし、前後援会長 宮下富男様、地域の皆様からご支援いただきました。

今後、地域のお宝を詠んだ「妙高かるた」が、妙高小学校において地域を学ぶ大切な教材となります。「妙高かるた」が、妙高地区のお宝を分かりやすく紹介する資料として、多方面で活用されることを願っています。

「妙高かるた」読み句完成に寄せて

絵本を楽しむ会 ひだまり

昨年六月に妙高小学校児童と一緒に、遠足で詠んだ句がようやく四十四句にまとまり、発表できることとなりました。

児童の読み句が二十句ほど。夏休みに指導してくださいました選者の井澤秀峰先生の二句、関山神社奉献額と、宝蔵院の句碑の二句、残り二十句は、児童が詠んでいないお宝をひだまりの会で補足しました。「あゝわ」までの五十音順に並べるため、児童の句に手を加えたものもあります。

完成するまでの間、「妙高（関山）の文化財を語る会」や妙高市教育委員会生涯学習課 学芸員 佐藤慎様、妙高小学校に多大なご支援、ご助言をいただき誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

現在、新潟在住の絵本作家さんに絵を描いていただいていますので、今年秋には大型かるたを楽しめる予定です。

「妙高かるた」制作にご協力いただいた皆様

- 妙高小学校令和元年度在籍児童
- 絵本を楽しむ会 ひだまり
  - ・川上壽子
  - ・駒村秋子
- 妙高（関山）の文化財を語る会
  - ・丸山里亜子
  - ・後藤浩子
- 川上昭治
- 岡本哲彦
- 選者
  - ・井澤秀峰
- 妙高市教育委員会生涯学習課 学芸員
  - ・佐藤 慎
- 地域の皆様
  - ・宮下富男
  - ・望月正樹
  - ・古川正六
  - ・上野幸男
  - ・望月文治
  - ・古川清吉
  - ・古川博文
  - ・宮下健一
  - ・太田 謙
  - ・水野静子
  - ・滝常利正
- 国立妙高青少年自然の家
- 国際自然環境アウトドア専門学校
- 妙高小学校教職員

（敬称を略させていただきました。）



# 妙高かるた

# 妙高山がみてごぼる

あ 阿弥陀三尊のおられる 妙高堂  
 い 一里塚 旅人たちの 道しるべ  
 う ウォーキング 木もれ陽いっぱいブナ林  
 え 江戸時代の庄屋太田家 苔みごと  
 お 大鹿出身 神様になった しよならさん  
 か 要石から 院主が眺めた 妙高山  
 き 経塚の大壺は タイムカプセル  
 く 雲行くや 院主の墓地の草紅葉  
 け 謙信公の 心を静めた 座禅石  
 こ この地域 妙高山が 守り神  
 さ 山頂の 阿弥陀堂参り 御影札  
 し 神社の標札 「権現」改め「大神」に  
 す 杉の御神木 みんなで手つなぎ 木をかこむ  
 せ 関の赤湯に 燕の白湯 紅白めでたい 温泉地  
 そ 宗祇句碑 水にすむ 心や み山 あきの庭  
 た 大洞原の歴史を語る 開拓碑  
 ち 散るもみじ 小路の先は 不動滝  
 つ 燕の惣滝 落差大きく 百選の滝  
 て 寺尾薬師 九十九段 登りつめ  
 と 殿様が ここにつくれと 坂口新田



な 仲良しの 二十六個の 石仏  
 に にこやかな 観音菩薩は 日本最古  
 ぬ ぬれても楽しい 青少年自然の家 源流探検  
 ね 願いこめ 関山神社へ 初詣  
 の のびやかに 亀石さんは 池の中  
 は 幕府に献上の 大鹿たばこ  
 ひ 火祭り 仮山伏の 棒つかい  
 ふ 仏足石 お釈迦様の 足のうら  
 へ 弁財天 大いわくらに 奉られて  
 ほ 宝蔵院 滝の上には 妙高山  
 ま 松引きは 豊作願う 火のまつり  
 み 弥勒様 お団子へアーの おしゃれ仏  
 む 昔を語る 逢龍寺の 大いちよう  
 め 芽吹く山々 いつもおいしい 庚申清水  
 も 森のうち 太鼓ひびくや 夏まつり (松宇の句)  
 や 山崩れ六十人を祀る 供養塚  
 ゆ 雪形の 「山」の字正しく 楷書なる (秀峰の句)  
 よ 夜の御輿 擬宝珠 かがやく お宮入り  
 ら ライン滑降 スキーがうまい 地元っ子  
 り 龍の旗 謙信公からの おくりもの  
 る 類々の歴史をのこす 宝蔵院日記  
 れ 歴史ある 五社を集めて 大鹿神社  
 ろ 露天風呂 登山客に いやしの湯  
 わ 若葉風 辻に御座せる 石仏 (秀峰の句)

